

『これからの5年を考える』

姫城地区社会福祉協議会 会長 柿木原 康雄

人口減少と少子高齢化が加速度的に押し寄せてきている昨今、このうねりに対処するには、社会保障制度を恒久的に発展させることであるといわれています。幸いに都城地域には、社会教育をベースにした社会教育関係の組織が、さらに地域福祉をベースとした組織がそれぞれの地域全体に包含されています。これらを活用し、横の繋がりをさらに強固なものとしていくことが、これから目指す自助・共助による地域づくりに大きく役立つと思われまます。

姫城地区社協 これからも続けていきたい活動

夢のランチ会

土曜学習会に参加している子ども達との交流や、今後の将来に向けた助言などを行う機会として実施しています。令和2年度は実施できませんでしたが、来年度以降も開催方法を工夫して継続的に取り組んでいきます。



三世代交流事業

毎年、11月中旬から12月上旬にかけて世代間交流を目的として自治公民館単位で実施しています。これからも子どもたちと地域の居場所として多くの自治公民館で実施できるよう支援してまいります。



生活援助員のつどい

援助員同士の情報交換や交流を目的として令和2年度より実施しています。活動内容や困っていること、生活おたすけサービスに対する要望等を共有することで、円滑なサービス提供を目指しています。



在宅介護者のつどい

毎年、在宅で介護されているご家族に対して、リフレッシュや介護者同士の交流を行うために実施しています。今後は、内容をさらに充実させたり、周知方法を検討し直したりすることで多くの参加者に来ていただけるつどいにしてまいります。



15地区地域福祉活動計画 姫城地区社会福祉協議会

姫城地区スローガン

地域の宝に磨きをかけて！
みんなでつくる ひめぎの輪

【基礎情報】(R2.5.1)

人口規模 (住基人口)	全 体	11,854 人	世帯数	6,031 世帯
	男 性	5,554 人	自治公民館加入世帯	3,205 世帯
	女 性	6,300 人	自治公民館加入率	53.1%

【姫城地区の現状・課題】計画策定作業と「地域福祉に関するアンケート調査」結果より

- 若い世代の公民館未加入世帯の減少
- 公民館未加入者のごみ捨て問題
 - ・アパート、マンション住まいの方の分別がよくない
 - ・他地区からの不法投棄が多い
- 生鮮食品店が減少しており、買い物に困る高齢者が多い
- コロナの影響
 - ・地区との関わりが少なくなった
 - ・地域行事（六月灯など）がなくなり、活気が無い
- 中学生の地域行事への参加が少ない
 - ・姫ボラとの連携が少なくなっている
- 地域と学校との意見交換の場作り
 - ・学校の先生の役員会の参加
- 民生委員との連携
 - ・75歳以上の一人暮らしの増加（400人以上）
- 災害時の避難所問題
- 高齢者クラブ加入者減少問題
 - ・10年間で3000人減少
 - ・引継ぎがうまくいっていない。役員の年数が長い
- 地区社協の広報活動
 - ・チラシ等の作成
- 開設日の増加
- 生活おたすけサービス利用者の増加
 - ・援助員の募集

姫城地区地域福祉活動計画

(計画実施期間・令和3年度～令和7年度)

計画スローガン (大項目)

地域の宝に磨きをかけて！みんなでつくる ひめぎの輪

中項目	小項目	具体的な取り組み内容
1 小地域 (自治公民館単位) での福祉活動の充実と関係機関団体との連携協働できる地域づくりを目指します (地域づくり)	1-①これまで取り組んできた事業をさらに充実させていきます	継続)・在宅介護者の集いの開催 (R3～) 継続)・健康福祉相談の実施 (R3～) 新規)・地域行事 (六月灯など) の継承 (R3～検討)
	1-②自治公民館単位でのサロン活動を充実させていきます	継続)・世代間交流事業の支援 (R3～) 新規)・小規模の地域交流の場づくり (R3～検討)
	1-③学習支援事業を充実させていきます	継続)・土曜学習会の支援 (R3～)
	1-④関係団体等との研修会を行い、連携を深めます	継続)・先進地視察研修の実施 (R3～)
2 多世代のボランティア育成のため事業を充実していきます (人づくり・つながりづくり)	2-①おたすけサービスを充実させていきます	継続)・生活援助員の募集 (R3～) 継続)・生活援助員の集いの開催 (R3～年1回) 新規)・養成講座の開催 (R3～)
	2-②民生委員、SC との連携を強化していきます	新規)・公民館未加入世帯の活動支援 (R3～) 新規)・一人暮らし世帯への支援 (R3～)
	2-③子どもたちの健全育成活動を充実させていきます	継続)・福祉体験学習の協力 (R3～) 新規)・「地域の史跡めぐり」の開催 (R3～検討) 新規)・中学生の地域行事への参加 (R3～検討)
3 様々な関係機関・団体が協議できる場づくりに取り組みます (協議の場づくり)	3-①地区内の関係機関・団体等の連携を図ります	新規)・地区内関係機関団体意見交換会の実施 (R3～年2回を検討) 例：地区内の小・中学校長との意見交換
4 地域住民の困りごとに対応できる組織体制づくりを目指します (しくみ・体制づくり)	4-①事務局体制を充実強化していきます	新規)・開設日の増設 (R3～検討)
	4-②広報 PR 活動を強化します	継続)・広報紙の発行 (R3～) 新規)・事務局開設チラシの作成 (R3～)

『これからの5年を考える』

妻ヶ丘地区社会福祉協議会 会長 淵上 澄雄

妻ヶ丘地区も少子高齢化の波が、他地区同様増加している傾向にあり、「普通の暮らしができるしあわせ」を求めてより一層具現化に向けて取り組むことが求められています。その要は地区社協であり責任の重大さを感じているところです。

これからの5年間、実現できる施策を小さな事でも取り組み自治公民館等他団体の協力を得て実践し、「福祉のまち妻ヶ丘」を目指したいです。

妻ヶ丘地区社協 これからも続けていきたい活動

在宅介護者のつどい

毎年、在宅で介護されているご家族に対して、リフレッシュや介護者同士の交流を行うために開催しています。

在宅介護者を支えていくために、事業の周知や気軽に相談し合える環境をつくるのが重要になっています。



男性料理教室

食の自立を目的に各公民館にて、男性料理教室を毎年行っています。健康的な生活を送るために地域で支え合う大事さを感じる機会にもなります。

今後は、男性だけでなくいろいろな人が地域で生活していくために内容や対象者を広げます。



子育てサロンにじ

毎月第3水曜日に、地域の子育て支援を目的に、未就学児のいる親子の遊び場づくりとして開催しています。

参加者への広報活動や内容の充実を行い、地域の現状に応じた活動を目指します。



福祉総合研修会

地区社協の構成員である、民生委員児童委員、公民館長、高齢者クラブ、食改善推進員等が一堂に会して、年に1回、地域福祉について学び合い、つながりをつくります。

今後の連携にむけて、日頃からの定期的な話し合いの場が不可欠になります。



15地区地域福祉活動計画 妻ヶ丘地区社会福祉協議会

妻ヶ丘地区スローガン

やってみよう! 育てよう!
集いつながる つまがおか

【基礎情報】(R2. 5. 1)

人口規模 (住基人口)	全 体	19,461 人	世帯数	8,932 世帯
	男 性	9,006 人	自治公民館加入世帯	4,886 世帯
	女 性	10,459 人	自治公民館加入率	54.7%

【妻ヶ丘地区の現状・課題】計画策定作業と「地域福祉に関するアンケート調査」結果より

- 民生委員と公民館長との連携が必要
- 公民館未加入世帯の減少と関り
- 公民館活動が社会的弱者救済への取り組みがあまりない
- 民生委員の欠員が8名。民生委員の活動が理解されていない
- 高齢者クラブの高齢化と加入者数の減少
- いきいきサロン事業の在り方の検討が必要
- 団地の貧困世帯の問題や団地入居者の減少（2割減）
- ゴミ出しのルールが守られていない
- 若い世代の助け合いの経験があまりない。若い世代の地域への愛着が薄い
- 地域共生社会への意識が欠如（他人事を自分事に置き換えることができない）
- 単身高齢者の増加
- 男性の集う場所がない
- 地域での助け合いの必要性が理解されない
- 第2層生活支援コーディネーターの役割など、それぞれの活動に対する理解不足
- 地域で子育ての環境が薄れている。子育てサロンにじの運営検討
- 人手不足のため、(子どもから大人まで)すべての住民に余裕がなくなっている
- 行政の人事異動による事業の停滞や後退
- コロナ禍での課題。コロナを理由に活動が減少する。活気がなくなった
- 地区社協専用拠点がない。地区社協の資金の確保
- 世間的には相談窓口は多くなっているが、地区社協の実際の相談は少ない
- 相談を受けるが何もできず回答ができない。情報源がない。毎年相談員が変わるので、相談員の研修が必要

妻ヶ丘地区地域福祉活動計画

(計画実施期間・令和3年度～令和7年度)

計画スローガン (大項目)

やってみよう！ 育てよう！ 集いつながる つまがおか

中項目	小項目	具体的な取り組み内容
1 小地域（自治公民館単位）での福祉活動の充実と関係機関団体との連携協働できる地域づくりを目指します (地域づくり)	1-①これまで取り組んできた事業をさらに充実させていきます	継続)・在宅介護者の集いの開催 (R3～) 新規)・単身男性高齢者の買い物や献立など生活に役立つ講座 (検討)
	1-②公民館活動の支援を強化し、地域課題に応じたいきいきサロン研修などを行います	新規)・公民館単位での座談会や研修会の開催 (R3～) 新規)・小地域活動 (ミニサロン等の定期開催など) の充実 (R3～)
	1-③新しい取り組みに対して、助成し活動を支援します	新規)・課題に応じた新たな取り組みへの活動準備資金等の助成 (R3～) 新規)・クリーン作戦を地域活動へつなげる (検討)
	1-④関係団体等との研修会を行い、連携を深めます	継続)・福祉総合研修会の開催 (年1回) (R3～) 継続)・生活おたすけサービス事業研修会 (R3～) 継続)・先進地視察研修会の実施 (R3～)
2 多世代のボランティア育成のため事業を充実していきます (人づくり・つながりづくり)	2-①世代間交流や伝承活動	新規)・「ふるさと味めぐり」の開催 (R3～)
	2-②子育てサロンにじの活動を充実させます	新規)・ボランティアの人材調査と育成 (地域の専門職OBなどの活用) (検討) 新規)・子育て支援のニーズ調査 (R3～)
	2-③民生委員児童委員活動の支援を行います	新規)・公民館役員 (福祉部長等) が民生委員を就任する仕組み
3 様々な関係機関・団体が協議できる場づくりに取り組みます (協議の場づくり)	3-①地区内の関係機関・団体等の連携を図ります	新規)・地区内関係機関団体意見交換会の実施 (R3～年1回)
	3-②事業の見直し委員会を行います	新規)・事業の見直し検討会 (検討)
	3-③生活支援コーディネーター等との生活課題についての協議の場をつくります	新規)・生活支援連絡会 (R3～)
4 地域住民の困りごとに対応できる組織体制づくりを目指します (しくみ・体制づくり)	4-①事務局体制を充実強化していきます	新規)・事務局長・事務局員の2名体制の導入 (R5～) 新規)・開設日や拠点の増設 (R3～)
	4-②広報PR活動を強化します	継続)・広報紙の発行 (R3～) 新規)・事務局開設チラシの作成 (R3～) 継続)・公民館館報に地区社協の情報を掲載する (R3～)

『これからの5年を考える』

小松原地区社会福祉協議会 会長 川路 豊子

私達は計画スローガンを「笑顔であいさつ!夢づくり サンシャイン小松原」として、住み慣れた地域で誰もが心豊かに生活できるために、地域が抱えるさまざまな課題の解決に向けて連携・協働して、福祉事業に取り組んでいきます。

小松原地区社協 これからも続けていきたい活動

在宅介護者のつどい

年2回程度、在宅で介護をされている方が、他の参加者と共に日頃の思いを共有し、介護の疲れやストレスをリフレッシュできるよう開催されています。地区内の専門職も参加し、介護についての悩みや相談に対しアドバイスできる機会にもなっています。



いきいき90歳写真展

地域で元気に暮らしているその年90歳になられる方のご自宅を訪問してお写真を撮り、地区まつりで展示し、写真をプレゼントするという事業です。写真展に来られた方々に元気を与えると共に、被写体となった90歳の方々の外出のきっかけにもなっています。



買い物支援サービス (わくわく♥ワゴン)

志比田町管内にお住まいの日常的に自分で買い物に行くことが困難な方を、定期的にお店まで送迎する事業です。送迎の車両及び運転手は「社会福祉法人まりあ」さんにご協力をいただき実施しています。今後は志比田町だけでなく、他の社会福祉法人にもご協力をいただきながら、小松原全域でサービスを提供できることを目指しています。



子どもサロン活動支援

夏休み期間に、小松原地区内の複数の自治公民館にて行われている子どもサロンの支援を行っています。地域の方々の協力のもと、子どもたちは宿題や工作などを行い、楽しく過ごしています。これからも「子どもたちを地域で支える仕組み」として、多くの自治公民館で実施できるよう支援していきます。



小松原地区スローガン

**笑顔であいさつ!夢づくり
サンシャイン小松原**

【基礎情報】(R2.5.1)

人口規模 (住基人口)	全 体	10757 人	世帯数	5670 世帯
	男 性	5048 人	自治公民館加入世帯	2429 世帯
	女 性	5709 人	自治公民館加入率	42.8%

【小松原地区の現状・課題】計画策定作業と「地域福祉に関するアンケート調査」結果より

- 公民館の未加入世帯。加入していても行事等の参加率が低い
- 公民館に入っていない人は情報が回ってこない
- 高齢者の一人暮らし世帯増加。サービスについての情報を伝えたり、寄り添う人・傾聴する人が必要
- 民生委員がいない地区は特に福祉が必要な人が見落とされている
- 家庭の状況を隠そうとするので、見えない・分からない家庭がある
- 空き家が増えてきている
- こけない体操など、同じメンバーが来るので新しい人が入りづらい。男性も参加しづらい
- 地域の様々な人が集える憩いの場の創設や見守り体制の構築
- 食べ物をちゃんと食べられているか、心配な子どもがおり、支援が必要。夏休みに子どもサロンを行っているが、通常でやるのはどうか
- 子どもの地域性は地域が育てていく必要がある。学校だけでなく、地域で子どもを見守り、育てる
- OPTA がなくなるかもしれない問題が浮上している。コロナ禍で集まれず活動を見せられず、難しい運営を強いられている
- コロナでこけない体操がなくなり、一ヶ月で歩けなくなった人がいる。そういう人が今後益々増えてくると思う
- 自粛が長引くと、福祉の必要な人たちが見過ごされてしまう懸念がある
- 水害、地震など災害の認識が薄く、緊急時の避難先の周知がされていない
- 台風等で避難をする前に、避難状況を確認するため、班長や館長に連絡を入れてほしい
- ハザードマップを配布していても見ない人が多い
- せっかくのサービスや制度を知る機会がない
- 行政が動くのが難しいところは、社会福祉法人に協力を仰いだり、自治公民館単位でボランティアを結成したり、地域でできることを考える

小松原地区地域福祉活動計画

(計画実施期間・令和3年度～令和7年度)

計画スローガン (大項目)

笑顔であいさつ！夢づくり サンシャイン小松原

中項目	小項目	具体的な取り組み内容
1 小地域 (自治公民館単位) での福祉活動の充実と関係機関団体との連携協働できる地域づくりを目指します (地域づくり)	1- ①これまで取り組んできた事業をさらに充実させていきます	継続) ・いきいき 90 歳写真展の開催 新規) ・買い物支援サービスを小松原全域に広げます 継続) ・子どもサロンの各自治公民館への拡充 継続) ・在宅介護者のつどいの充実
	1- ②地域課題に応じたサロン活動を新設、支援します	新規) ・各自治公民館単位で集いの場・憩いの場づくりに取り組みます (子どもサロン、高齢者サロン、三世代サロンなど) 新規) ・男性が参加しやすいサロンを作ります (料理教室など) 継続) ・ふれあいいきいきサロン活動の充実、強化
2 多世代のボランティア育成のため事業を充実していきます (人づくり・つながりづくり)	2- ①ボランティア育成に取り組みます	新規) ・傾聴ボランティア、寄り添うボランティア研修の実施
	2- ②災害が起こった時に、地域に住む人が誰ひとり取り残されない見守り体制づくりを推進します	新規) ・防災・防犯研修の充実 新規) ・各自治公民館単位での防災学習会
3 様々な関係機関・団体が協議できる場づくりに取り組みます (協議の場づくり)	3- ①地区内の関係機関・団体等の連携を図ります	新規) ・地区内関係機関団体 (地域・施設・学校等) 意見交換会の実施 (小松原地区地域福祉座談会)
	3- ②様々な福祉課題を協議できる場をつくります	新規) ・ケース検討会の実施
4 地域住民の困りごとに対応できる組織体制づくりを目指します (しくみ・体制づくり)	4- ①広報PR活動を強化します	継続) ・広報紙、事務局チラシの発行 新規) ・積極的に集いの場に出向いての広報活動 新規) ・「地区社協」という略称を、もっと親しみやすい名称に

『これからの5年を考える』

祝吉地区社会福祉協議会 会長 荒武 春男

コロナに負けない健康で明るく住みよい安心・安全なまち祝吉に向かって、高齢者、若者、子どもと手を取り合って“夢と希望”の目標に365日一步一步、歩いていきましょう。

祝吉地区社協 これからも続けていきたい活動

茶っぴいサロン（子育てサロン）

毎月第3火曜日に開催。親子で楽しめるよう季節に応じた内容を計画しています。茶っぴいタイムでは、お茶お菓子を楽しみながら保護者、ボランティアと交流を図り、子育ての相談等をしやすい環境づくりをしています。



スマイルカフェ祝吉

月1回地域住民同士の交流や居場所づくりとして、調理や会食を実施し多世代交流の場となっています。コロナが流行してからも、つながりを切らさないため、弁当配布をしています。地域で人が育つ場を目指します。



自治公民館長・民生委員合同研修会交流会

双方が顔をあわせ学習会や情報交換をし、地域のことを考える・語る場になっています。自治公民館長と民生委員、地区社協の連携強化をし、よりよい祝吉地区を目指します。



ボランティア学習会

子育てサロン等で活躍しているボランティアが、楽しみながら安心して活動できるように学習会を年2回程度実施しています。さらなる地域福祉活動活性化を目指します。



祝吉地区スローガン

みんなちがってみんないい
～夢・希望あふれる「あやめのまち祝吉」～

【基礎情報】(R2.5.1)

人口規模 (住基人口)	全 体	18,974 人	世帯数	9,436 世帯
	男 性	8,937 人	自治公民館加入世帯	3,801 世帯
	女 性	10,037 人	自治公民館加入率	40.3%

【祝吉地区の現状・課題】計画策定作業と「地域福祉に関するアンケート調査」結果より

○人づくり・つながりづくり

- ・若い世帯の巻き込むためのきっかけ作りが必要
- ・若い人の声を聞く場を設定し、子どもから高齢者までが楽しめる企画をしたい
- ・理事会設置を検討し、若い人や他組織の巻き込みが必要になってくる
- ・民生委員・公民館長合同研修会交流会は役割把握や情報共有の場として継続していきたい
- ・子育て世代とのコミュニケーションが不足している
- ・茶っぴいサロンは親子がふれあえる場として更なる充実をしていきたい
- ・在宅介護者のつどいが以前のように月1回気軽に茶話会をする場になればいい
- ・隣近所との付き合いがなくなり顔が見えなくなっている
- ・自助力が低下している
- ・学校との情報共有が足りていない

○地域づくり

- ・ひとり暮らし高齢者や若い世帯の公民館未加入で、自治会組織等成り立たなくなっている
- ・高齢者の集う場所、機会がない
- ・コロナの影響で外出が減り体力低下や認知症症状発症している高齢者が増えている
- ・空き家の増加
- ・生活が苦しくなっている人が多い
- ・コンビニが多く買い物できるスーパーが少ない
- ・避難所を知らない人が多い

○しくみ・体制づくり

- ・ちょっとした困りごとに対応できる有償サービスを立ち上げたい
- ・地区社協の役割の明確化や周知活動が必要
- ・地域活動に積極的なNPO団体との連携し地域福祉推進をしたい

祝吉地区地域福祉活動計画

(計画実施期間・令和3年度～令和7年度)

計画スローガン (大項目)

みんなちがってみんないい ～夢・希望あふれる「あやめのまち祝吉」～

中項目	小項目	具体的な取り組み内容
1 小地域 (自治公民館単位) での福祉活動の充実と関係機関団体との連携協働できる地域づくりを目指します (地域づくり)	1- ①これまで取り組んできた事業をさらに充実させていきます	継続)・公民館長、民生委員合同研修会、交流会の開催 継続)・在宅介護者の集いの実施 新規)・各自治公民館の支え合い活動の把握 (R3)
	1- ②学校と地域との連携協働事業を積極的に推進していきます	継続)・学校ボランティア (総合的な学習) への協力 新規)・こどもまち協と連携して、定期的な意見交換会を開催 強化)・学校や学校運営協議会との情報共有
	1- ③茶っぴいサロン (子育てサロン) の活動の充実をさせます	継続)・勉強会や視察研修などボランティア研修の実施 (年2回) 継続)・活動内容や広報の充実
2 多世代が参加しやすい新しい活動の創出に取り組みます (人づくり・つながりづくり)	2- ①おたすけサービスを充実させていきます	継続)・生活援助員の募集 継続)・生活援助員の意見交換会、研修会の実施
	2- ②有償ボランティアを立ち上げます	新規)・協議体の立ち上げ (R3) 新規)・各自治公民館の支え合い活動や地域課題の把握 (R3) 新規)・有償ボランティア活動開始 (R5)
	2- ③若い世代を巻き込んだ活動を推進します	新規)・若い世代もボランティアに興味を持ってもらうようにマルシェ等企画の実施
3 様々な関係機関・団体との協働の活性化に取り組みます (協議の場づくり)	3- ①地区内の関係機関・団体等の連携を図ります	新規)・地区内関係機関団体意見交換会の実施 (R3～年2回) 新規)・理事会組織の立ち上げの検討 (PTA や施設等) 新規)・NPO 団体と連携した地域活動の実施
	3- ②様々な福祉課題を協議できる場をつくります	新規)・ケース検討会の実施 (R3～随時)
4 安心安全な地域づくりのための組織体制を目指します (しくみ・体制づくり)	4- ①事務局体制を充実強化していきます	新規)・理事会組織の検討 (R3)
	4- ②広報PR活動を強化します	継続)・広報紙の発行 新規)・事務局開設チラシの作成 (R3～)

『これからの5年を考える』

五十市地区社会福祉協議会 会長 福丸 良秋

本協議会設立当初からの広報紙「あゆみ」から「**あ**んしんで**ゆ**めひろがる**み**んなのふくし」を今回の活動計画のスローガンにしました。地域が一体となって、これからも誰もが安心して暮らせる五十市地区を目指して「あゆみ」続けていきたいと思えます。

五十市地区社協 これからも続けていきたい活動

ふれあい訪問事業

一人暮らし高齢者世帯へ、自治公民館長や民生委員と一緒に訪問活動を行っています。これまでは「ふれあい交流のつどい」として事業を行っていましたが、コロナウイルスの影響を受けて訪問型へと変更しました。今後は、高齢者の課題把握のため、対象者を広げたり、内容を充実させたりしていきます。



おじいちゃんクッキング

男性料理教室として、毎月1回行っています。参加者の方々はとても楽しみにされており、料理のスキルだけでなく月に1回の居場所にもなっているようです。現在は、五十市地区公民館で実施しており、今町は年に1回のみ開催ですが、今町でも定期的に実施できるよう取り組みます。



学習支援事業

五十市地区では、中学3年生を対象とした「いそいち Study Room 土曜の朝」と、今町小学校全学年を対象とした「今町っ子まなび館」の2つの学習支援事業を行っています。令和2年度はどちらもコロナウイルスの影響により実施できませんでしたが、次年度からは工夫しながら再開していく予定です。



子育てサロンピヨピヨひろば

現在、民生委員の皆さんにご協力をいただきながら、毎月第4土曜日に実施しています。季節のイベントを取り入れて楽しんでもらえるサロンを計画しています。今後は、内容をさらに充実させたり、周知方法を検討し直したりすることで多くの参加者に来ていただける子育てサロンにしていきたいです。



五十市地区スローガン

あんしんで **ゆ**めひろがる **み**んなのふくし

【基礎情報】(R2.5.1)

人口規模 (住基人口)	全 体	17,183 人	世帯数	8,453 世帯
	男 性	8,200 人	自治公民館加入世帯	4,059 世帯
	女 性	8,983 人	自治公民館加入率	48.0%

【五十市地区の現状と課題】計画策定作業と「地域福祉に関するアンケート調査」結果より

○新型コロナウイルスによる変化

- ・気軽に茶饮みなどができなくなったため、コミュニケーションを取りづらくなった
- ・公民館活動も人を減らして掃除などを行うため、人と会わなくなった
- ・人と話すことが減るため、うつ気味になっている高齢者が多く、認知症の相談にもつながっている

○運転免許証の返納

- ・通院が難しくなるので、バス停がある病院や送迎ができる病院に変えざるを得ない
- ・病院はいくつもに行っている人が多く、ほとんどがタクシーを利用している

○公民館未加入問題

- ・地域がバラバラになっているのを感じる
- ・今後、高齢者クラブや子ども会がなくなってしまったらどのように地域活動を行っていけばいいか

○ゴミ出しについて

- ・ゴミ出しに困っている人は意外と聞かない。子どもや近所の人同士で助け合いができていないのではないか
- ・現在は困っていなくても、運転免許証の返納などで今後困ることは考えられる
- ・狐塚自治公民館は、副館長が軽トラでゴミ収集日に区内を回り、ゴミを集めている

○五十市中学校のボランティアについて

- ・令和2年度より、「ボランティア委員会」が立ち上がり、1～3年生で120名程度が登録している
- ・中学生を対象に、自分たちがいまできるボランティアを挙げてもらったところ、ゴミ出しや収集活動、自分の特技を生かした創作活動などが挙げられた

五十市地区地域福祉活動計画

(計画実施期間・令和3年度～令和7年度)

計画スローガン (大項目)

㊦ あんしんで ㊧ めひろがる ㊨ みんなのふくし

中項目	小項目	具体的な取り組み内容
1 小地域 (自治公民館単位) での福祉活動の充実と関係機関団体との連携協働できる地域づくりを目指します (地域づくり)	1-①関係機関で協働して高齢者の課題把握や支援に努めます	継続)・公民館長と民生委員、生活支援コーディネーターでふれあい訪問を実施 継続)・各自治公民館で実施しているいたつみろかいの推進 継続)・おじいちゃんクッキングの継続実施 新規)・おじいちゃんクッキングを今町でも定期的に実施
	1-②子どもへの支援や学校との連携に努めます	継続)・子育てサロンの充実 継続)・今町小学校、五十市中学校を対象とした学習支援事業 新規)・五十市小学校を対象とした学習支援事業の実施
	1-③生活支援コーディネーターの活動をさらに充実させていきます	継続)・意見交換会の実施 継続)・訪問に同行することによって地域内の課題の把握につなげる 新規)・ニーズに基づいた新たなサービス、支えあいのしくみの創出
	1-④これまで取り組んできた事業をさらに充実させていきます	継続)・在宅介護者のつどいを広く周知する
2 多世代の人材育成のため事業を充実していきます (人づくり・つながりづくり)	2-①地区内での人材確保に努めます	継続)・生活おたすけサービスにおける生活援助員の募集 新規)・日常生活支援事業の生活支援員の募集 新規)・地域で支え手となりうる人材調査と育成
	2-②よりよい五十市地区になるよう研修の機会を増やします	継続)・先進地視察研修 新規)・公民館長と民生委員の合同研修を開催
3 様々な関係機関・団体が協議できる場づくりに取り組みます (協議の場づくり)	3-①地区内の関係機関・団体の連携を図ります	新規)・地域福祉座談会を自治公民館単位で実施 新規)・福祉施設などの関係機関との意見交換会
4 地域住民の困りごとに対応できる組織体制づくりを目指します (しくみ・体制づくり)	4-①地区社協の広報活動を強化します	継続)・広報紙 (あゆみ) の発行回数を年1回から年2回へ増やす 継続)・ふれあい訪問事業などを通して地区社協を広報する

『これからの5年を考える』

横市地区社会福祉協議会 会長 溝ノ口 光男

まず地域の住民がお互いを知り合えるようにすることや、地域活動が活発に行えるようにしていくことが大変重要だと思います。なお、一層の関係者の努力と忍耐力が必要でスローガンである「顔の見える地域づくり」を追及していきます。

横市地区社協 これからも続けていきたい活動

みそ汁の会

地域で誰でも参加できる居場所。おにぎりを握って気軽に参加して、あったか〜いみそ汁を食べながら好きな話をする。各自治公民館での開催を目指しています。みんなで食べるご飯は嬉しい。久しぶりに顔が見られて嬉しかった。などの感想がありとても好評です。



よこいちい散歩（地域めぐり）

横市を知る。をコンセプトに地区社協メンバーや、館長、民生委員と一緒に地域探索を行います。災害危険箇所や空き家などの課題発見もありますが、この散歩を通しての出会いや、地域住民のふれあいがとても重要です。



ふれあいウォーキング

毎年1回、地域住民のふれあいと、健康づくりのために開催。毎年多くの方が参加されてとても賑わっています。コロナ対策を講じて新しい形のウォーキング大会を企画しています。



広報紙「さくら」発行

横市地区社協の活動紹介や、なんでも相談周知のために定期発行しています。ぜひ、多くの方にご覧いただき、地区社協を知ってほしいと思います。見て楽しい、知ってタメになる広報紙を目指しています。



横市地区スローガン

横一線ですすめる顔の見える地域づくり

【基礎情報】(R2.5.1)

人口規模 (住基人口)	全体	14,522人	世帯数	6,282世帯
	男性	6,931人	自治公民館加入世帯	2,913世帯
	女性	7,591人	自治公民館加入率	46.3%

【横市地区の現状・課題】計画策定作業と「地域福祉に関するアンケート調査」結果より

○自治公民館関連

- ・高齢に伴い公民館を脱会する
- ・公民館未加入者のゴミ捨てマナー
- ・借家の住民は公民館未加入が多い
- ・民生委員の欠員地区がある
- ・高齢者クラブは自ら加入する人が少なく、年々減少
- ・地域の事業や行事が多すぎて把握できない
- ・地区で活動する土台がない
- ・こどもの情報が分からない（個人情報壁）
- ・近所で子どもを見かけなくなっている
- ・地元愛、郷土愛を育てられる環境にしていく必要がある

○新型コロナウイルス関連

- ・研修など大規模から小規模にシフトしないといけない
- ・地域と心の絆を失う
- ・久しぶりに会うと話しが止まらない
- ・こけない体操が通常通りになった際、参加者が元に戻るだろうか

○よかところ自慢関連

- ・横市地区は水害が少ない
- ・母智丘ひろばが賑わっている
- ・高齢者がとっても元気
- ・子ども達も多く元気いっぱい
- ・これまで地域を創りあげてきた世代と、これから作り上げていく世代の連携が強い
- ・小中学生がボランティアに対する意識が強い、思いやり、やる気など積極的

横市地区地域福祉活動計画

(計画実施期間・令和3年度～令和7年度)

計画スローガン (大項目)

横一線ですすめる顔の見える地域づくり

中項目	小項目	具体的な取り組み内容
1 文教と福祉のまち、伝統と新世代が織りなす地域づくりを推進します (地域づくり)	1-①これまで取り組んできた事業をさらに充実させていきます	継続)・みそ汁の会を全自治公民館での活動の推進 継続)・各地区でのふれあい活動の充実
	1-②自治公民館長と民生委員の連携強化をしていきます	継続)・公民館長と民生委員との意見交換の実施 (R3～)
	1-③生活支援コーディネーターの活動を支援します	新規)・生活支援コーディネーターと地区社協役員が自治公民館の事業や、行事に同行訪問
2 横市っ子から大人まで顔の見える人づくりを行います (人づくり・つながりづくり)	2-①多世代交流できる場の整備を行います	新規)・男性料理教室の検討 (R3～)
	2-②子どもたちが参加できるサロン等を企画します	継続)・参観日預かり保育の充実に向けて学校との連携強化 新規)・学校の振休日に合わせて事業の検討 (R3～)
3 横市っ子から、高齢者、関係機関などみんなで語り合いながら協議の場を整備していきます (協議の場づくり)	3-①明日の横市地区を考え、行動するために世代を超えた地域住民との意見交換会を行います	新規)・各小学校、中学校と地域住民との意見交換会の実施 (R3～年1回～2回)
	3-②横市地区内の関係機関との連携を強化していきます	継続)・地域と施設等との意見交換及び事例検討会 (年1～2回)
	3-③生活支援コーディネーター等との生活課題についての協議の場をつくりま	継続)・生活支援コーディネーターの活動の情報共有の場
4 横市地区の顔の見えるしくみ、体制作りを構築していきます (しくみ・体制づくり)	4-①地区社協の基盤強化をしていきます	新規)・18自治公民館より地区社協への協力金 (R3～) 新規)・赤い羽根共同募金の助成 (R3～) 新規)・他地区社協との意見交換の検討 (R3～)
	4-②広報PR活動を強化します	継続)・年2回の広報紙発行 (R3～) 新規)・地区社協ジャンバーを着用し、広報活動強化 (R3～)

『これからの5年を考える』

沖水地区社会福祉協議会 会長 藤井 光英

沖水地区は地理的にも恵まれているので、5年後も発展すると思います。しかし、少子高齢化の影響で廃屋が増え、一部地区がゴーストタウンになるかもしれません。魅力ある地域活性化や若い人が住む明るい沖水地区づくりを目指していきたいです。

沖水地区社協 これからも続けていきたい活動

在宅介護者のつどい

在宅で介護している家族を対象に、少しでも日頃の介護疲れを癒し、また同じ悩みや経験を持つ方々と交流することで今後の介護の励みにしていただくことを目的に実施しています。今後も開催回数や周知方法を再検討し実施する予定です。



福祉標語の表彰

毎年、沖水小学校（5・6年）沖水中学校（2・3年）の生徒に福祉標語を考えていただき、優秀作品をポスター掲示します。地域の公共施設等へ掲示することにより、福祉への関心が高まり、小学生や中学生が福祉について考える機会場となっています。



子育てサロン（子育てハッピーサロンおきみず）

沖水地区の民生委員を中心に未就学児のいる親と子どもさん、妊婦さんを対象に地域での交流や情報交換会を目的に実施しています。また、地域イベントの情報提供やママパパ同士の交流ができるプログラムづくりを心がけ、みんなで楽しく、居心地の良い場所づくりを心がけています。



沖水のくらしまるごと相談

多様化している相談内容を“まるごと、受け止める場として子育て、障がい、老後の不安や困りごとに関する相談を沖水地区社会福祉協議会や沖水地区の施設等、沖水地区担当と連携して開設しております。（年6回程）



沖水地区スローガン

**相手の気持ちを一番に
協力し 笑顔ひろがる 沖水地区**

【基礎情報】(R2.5.1)

人口規模 (住基人口)	全 体	14,635 人	世帯数	6,982 世帯
	男 性	7,037 人	自治公民館加入世帯	3,618 世帯
	女 性	7,598 人	自治公民館加入率	51.8%

【沖水地区の現状・課題】計画策定作業と「地域福祉に関するアンケート調査」結果より

- 地区によっては店が遠くにあり、買い物に行くのが困難な方がいる
- 免許証返納のメリットがない
- 高齢者の方でゴミを出せない方がいる
- 12公民館で年1回、自主防災を実施している
- 高齢者等は避難する際、自分では行けない
- 自宅から避難所までが遠い
- 葬式が家、葬式場、家族葬へと変化し、地域の情報が入らなくなった
- 行事等がなく子どもの情報が入らない
- 以前は学校から主任児童委員に対して情報提供があったが、今はなくなった
- 子どもの貧困問題は見た目では分からない
- 民生委員や公民館長、生活援助員のなり手がいない
- アパートが増えて人との交流が少なくなった
- 自治公民館や育成会の未加入者が増加した
- 地区社協や公民館の行事を知らない方が増加
- アパートや家等の建物が増えている地区もあれば、空き地が増えている地区もある
- 空き地は子どもたちのたまり場（秘密基地）になる
- コロナで季節の行事や活動が中止になったことで役員の顔がわからない
- 引きこもりの対応について相談する場がない

沖水地区地域福祉活動計画

(計画実施期間・令和3年度～令和7年度)

計画スローガン (大項目)

相手の気持ちを一番に 協力し 笑顔ひろがる 沖水地区

中項目	小項目	具体的な取り組み内容
1 小地域 (自治公民館単位) での福祉活動の充実と関係機関団体との連携協働できる地域づくりを目指します (地域づくり)	1-①これまで取り組んできた事業をさらに充実させていきます	継続)・世代間交流活動 継続)・在宅介護者のつどい 継続)・男性料理教室 継続)・小学校参観日の預かり保育 新規)・モデル事業 (市健康課) を活用した地域活動 (サロン等)
	1-②子育てサロン (子育てハッピーおきみずサロン) を充実させていきます	継続)・チラシ等での周知 継続)・民生委員との連携 新規)・母子保健推進員との連携 新規)・視察研修
2 多世代のボランティア育成のため事業を充実していきます (人づくり・つながりづくり)	2-①人材確保と育成を行ないます	継続)・生活援助員のつどい 新規)・生活援助員の募集 新規)・生活援助員養成講座
	2-②各地区の自主防災組織を活用し、若い世代が参加できる活動の推進をします	継続)・モデル地区 (吉尾地区) での防災訓練 新規)・各地区公民館との連携、活動促進 新規)・モデル地区での防災訓練に各地区公民館長へ参加促進
3 様々な関係機関・団体が協議できる場づくりに取り組みます (協議の場づくり)	3-①地区内の関係機関・団体等の連携を図ります	継続)・沖水地区地域・福祉施設意見交換会
	3-②様々な福祉課題を協議できる場をつくります	新規)・ケース検討会の実施
4 地域住民の困りごとに対応できる組織体制づくりを目指します (しくみ・体制づくり)	4-①地域住民の悩みをまるごと受け止める場を提供します	継続)・沖水のくらしまるごと相談
	4-②広報 PR 活動を強化します	継続)・広報紙の発行 継続)・福祉標語の表彰 新規)・沖水地区社協便りや官報に地区社協の記事掲載 新規)・LINE やインスタ等を活用

『これからの5年を考える』

志和池地区社会福祉協議会 会長 黒木 政信

“何事にも前向きに考える” 子どもから高齢者に至るまで世代間の絆を大切に、お互いに思いやり、ちょっとした気遣い・気配りで、生活に喜び溢れるような世代間交流を通じて、毎日が明るく・楽しく・元気に生活ができる地域づくりを目指します。

志和池地区社協 これからも続けていきたい活動

一館一福祉推進事業

志和池地区社協が、各世帯から集めた協力金を助成金として19自治公民館に配布し、全館が福祉活動に取り組んでいます。例年は健康体操や福祉の話・防災訓練・花植え・パソコン教室・レクリエーション等、公民館単位でそれぞれの実情に応じた様々な活動を行っています。



在宅介護者のつどい

日頃在宅で介護をされている方が、介護するうえでの悩みを分かち合ったり、リフレッシュしたり、介護の仕方や制度について学ぶことを目的に毎年開催しています。様々な苦勞を語りながらも、皆さんが笑顔で過ごせるこの集いを、今後も継続していきたいと思えます。



小学生年賀状大作戦

コロナ禍で、特に高齢者の外出機会やコミュニケーションを図る場が少なくなる中、志和池地区の小学生が地域の高齢者へ応援メッセージを兼ねた年賀状の作成に取り組みました。その後、民生委員が高齢者宅にお届けし大変喜ばれました。これを機に、直接会えなくても心のつながりを感じられる取組を継続していきます。



地域・福祉施設意見交換会

地区社協役員と地域の福祉施設職員が一堂に会し、地域の実情や各取組について共有することを目的に毎年開催しています。施設の地域貢献活動を知り、連携を図りながら地域活動を進めていくために、大切な場となっています。



15地区地域福祉活動計画 志和池地区社会福祉協議会

志和池地区スローガン

笑顔あふれ広がる、志和池の話!和!輪!
～志の和すること この池のごとくあれ～



【基礎情報】(R2.5.1)

人口規模 (住基人口)	全 体	6,709 人	世帯数	3,078 世帯
	男 性	3,171 人	自治公民館加入世帯	1,963 世帯
	女 性	3,531 人	自治公民館加入率	63.8%

【志和池地区の現状・課題】計画策定作業と「地域福祉に関するアンケート調査」結果より

○公民館に関する問題

- ・公民館加入率の低下、また過去の地域役員が行事に非協力的
- ・こけない体操等、一度活動が休止になると再開が難しい
- ・個人情報の観点から、世帯名簿作成が困難なため災害時の対応が難しい
- ・自治公民館単位で自主防災組織があるが、実際の活動実績はあまりない

○高齢化による問題

- ・ゴミ出しや庭の手入れが難しい、移動手段がない、空き家の増加
- ・高齢者クラブへの参加人数が減少

○世代間交流の問題

- ・若い世代との交流の機会が少ない、若い世代の行事への理解がない
- ・行事の衰退に伴い、子ども達や保護者につながる機会が減少
- ・若い世代と時間帯を合わせるのが難しい

○災害時の対応

- ・第一避難所が遠い場合の対応や、災害時に要援護者に対して民生委員がどこまで関わるかが難しい

○コロナ禍による問題

- ・地区の行事や子ども関係の事業がすべて中止となり、より住民同士が交流する機会が減少
- ・自粛期間に心身機能が低下し、救急搬送が増えた

○地区社会福祉協議会の問題

- ・地区社協なんでも相談窓口の認知度が低く、住民からの相談がほとんどない
- ・自治公民館の地区社協に対する認識が低く、連携できる体制が出来ていない

○その他

- ・他人に何かをしてもらうことを躊躇する、お礼をしなければいけないと感じる住民性

志和池地区地域福祉活動計画

(計画実施期間・令和3年度～令和7年度)

計画スローガン (大項目)

笑顔あふれ広がる、志和池の話！和！輪！～志の和すること この池のごとくあれ～



中項目	小項目	具体的な取り組み内容
1 小地域 (自治公民館単位) での福祉活動の充実と関係機関団体との連携協働できる地域づくりを目指します (地域づくり)	1-①これまで取り組んできた事業をさらに充実させていきます	継続)・一館一福祉推進事業の実施とPR活動 (R3～) 継続)・在宅介護者の集いの実施 (R3～) 継続)・地区文化祭への協力 (R3～)
	1-②自治公民館単位の支え合い活動を把握し、各地区へ広げます	新規)・我が公民館自慢アンケートを19自治公民館へ実施 (R3)
	1-③子どもへの支援や学校との連携に努めます	継続)・志和池小丸野小学校預かり保育 (R3～) 継続)・夏休み寺子屋サロンへの協力 (R3～) 継続)・子ども年賀状大作戦事業 (中学生も巻き込む) (R3～) 継続)・小中学校での福祉教育・地域学習等への協力 (R3～)
2 多世代が参加しやすい新しい活動の創出に取り組みます (人づくり・つながりづくり)	2-①若い世代を巻き込んだ活動を推進します	新規)・年層・壮年層に働きかける事業の展開 (防災キャンプ・親子で参加できるVO活動等) (R3検討、R4～)
	2-②お助けサービスの充実と利用促進を図ります	継続)・生活援助員VO視察研修及び情報交換会 (R3～) 継続)・お助けサービス利用促進のための周知啓発 (R3～)
3 様々な関係機関・団体が協議できる場づくりに取り組みます (協議の場づくり)	3-①地区内の関係機関・団体等の連携を図ります	継続)・地域と福祉施設意見交換会の実施 (R3～年2回) 継続)・地域福祉交流会の実施 (R3～)
4 地域住民の困りごとに幅広く対応できる組織体制づくりを目指します (しくみ・体制づくり)	4-①事務局体制を充実強化していきます	新規)・役員会のメンバーとして、新たに壮年層・青年層を加え若い世代を巻き込む (R3働きかけ、R4～)
	4-②19自治公民館との連携を強化します	継続)・地区社協を周知し、地域課題を一緒に解決できる体制づくり (各自治公民館で出張なんでも相談等) (R3周知 R4～)
	4-③地区社協周知のための広報PR活動を強化します	継続)・広報紙の発行と充実 (R3～年2回) 継続)・有線、無線放送を利用した周知啓発 継続)・地区社協カレンダー作成事業 (R3～) 新規)・地区社協ふくしなんでも相談窓口PRチラシ作成 (R3～)

『これからの5年を考える』

庄内地区社会福祉協議会 会長 福村 修

これからの庄内地区も、みんなが生き生きと活躍し、ずっとこのまちに住みたい！
と思える地域であってほしいと思います。お互いに助け合おう、支え合おうという気
持ちは地域に広がっていくような、あたたかい庄内地区をつくっていきたいです。

庄内地区社協 これからも続けていきたい活動

在宅介護者のつどい

毎年2回、在宅で介護をしているご家族を対象とした「在宅介護者のつどい」を開催しています。介護に役立つ情報の提供や、介護者同士の意見交換、悩みの共有ができる繋がり場となっています。



生活援助員・福祉協力員研修

毎年1回、地域の福祉意識の向上を目的に、生活おたすけサービスの生活援助員と庄内地区の福祉協力員が合同で行う研修会を実施しています。一人ひとりが役割を持ち、支える側、支えられる側が互い元気でいられる地域を目指しています。



地域課題解決事業

地域の様々な関係者で地域について語り合う地域福祉座談会、一人暮らし高齢者の昼食交流会「おじゃったもんせ」、自治公民館単位での「いきいきサロン活動」、認知症学習会など、様々な活動を支援しています。



子どもの学習会「庄内わくわくスクール」

小学生を対象に、楽しい時間を一緒に過ごしながら学習に取り組み、学習支援だけでなく地域交流を通じて庄内の子どもたちを育むことを目的に長期休みに「庄内わくわくスクール」を実施しています。



庄内地区スローガン

心もまちもあたたかい ずっと住みたいまち庄内
～やさしい心 感謝の心 思いやりの心～

【基礎情報】(R2.5.1)

人口規模 (住基人口)	全 体	7,559 人	世帯数	3,628 世帯
	男 性	3,537 人	自治公民館加入世帯	1,948 世帯
	女 性	4,022 人	自治公民館加入率	53.6%

【庄内地区の現状・課題】計画策定作業と「地域福祉に関するアンケート調査」結果より

- 空き家が増え、そのまま放置されている
- 高齢化率が高い
- 一人暮らしの高齢者が多い。元気な高齢者も多いが、認知症、パニックを起こす人もいる
- 家族と疎遠のケースが多くなってきている
- 立ち止まって挨拶をするなど、優しい子どもが多い
- 高齢者施設への訪問など、子どものボランティア意識、福祉への興味がある
- 子どもの数は増えてきている
- 他地区からの移住者が多いが、馴染めていない人もいる
- 地区社協の取り組みの中に子どもに関する事業や子育て支援に関する事業がない
- 小・中学生の学力が伸び悩んでいる
- 活動拠点である分館の設備が整っていない
- 小さい頃から災害意識を高めることが必要
- 庄内地区まちづくり協議会が主となって防災訓練を毎年行っている
- 周り近所がみんな高齢者。災害時にどうサポートするか
- 公民館ネットワークから外れている人が災害時に心配
- 金銭的な理由で公民館に加入していない世帯や、抜ける世帯もある
- 地域の輪が公民館くらいしかない
- (コロナ問題) 地域の活動ができない
- (コロナ問題) 県外の家族と会えない。県外から帰省ができず、家族からの支援が受けられない高齢者もいる
- (コロナ問題) 高齢者の閉じこもりや、筋力、認知力低下
- 農家が元気！外国人労働者が多い

庄内地区地域福祉活動計画

(計画実施期間・令和3年度～令和7年度)

計画スローガン (大項目)

心もまちもあたたかい すーっと住みたいまち庄内 ～やさしい心 感謝の心 思いやりの心～

中項目	小項目	具体的な取り組み内容
1 小地域 (自治公民館単位) での福祉活動の充実と関係機関団体との連携協働できる地域づくりを目指します (地域づくり)	1-①これまで取り組んできた事業をさらに充実させていきます	継続)・在宅介護者のつどいの開催 継続)・いきいきふれあいサロン活動支援事業 継続)・訪問座談会 新規)・友愛訪問活動
	1-②元気な高齢者が積極的に活躍できる場をつくります	新規)・ボランティアの調査、人材確保 新規)・住民の困りごとに対応するボランティアを発足
	1-③学校と地域との連携協働事業を積極的に推進していきます	継続)・学習支援事業「わくわくスクール」 新規)・災害教育
2 多世代のボランティア育成のため事業を充実していきます (人づくり・つながりづくり)	2-①おたすけサービスを充実させていきます	継続)・生活援助員の募集 継続)・福祉協力員と生活援助員の合同研修会
	2-②ボランティア育成に取り組めます	継続)・認知症学習会 新規)・生活援助員養成講座 新規)・学生ボランティアの調査と募集 新規)・ボランティア活動のポイント化
	2-③世代間交流を促進します	継続)・オッシャーベリーハウスの活動への助成 新規)・多面的機能支払制度で行う事業との連携 (地域の子どもと生物研究など) 新規)・空き店舗を活用した世代間交流の場づくり 新規)・子育て支援のニーズ調査 新規)・子育て支援活動
3 様々な関係機関・団体が協議できる場づくりに取り組めます (協議の場づくり)	3-①地区内の関係機関・団体等の連携を図ります	継続)・庄内地区福祉参加団体意見交換会及び交流会
	3-②様々な福祉課題を協議できる場をつくります	継続)・地域生活支援会議
4 地域住民の困りごとに対応できる組織体制づくりを目指します (しくみ・体制づくり)	4-①事務局体制を充実強化していきます	新規)・開設日の増設検討
	4-②広報 PR 活動を強化します	継続)・広報紙の発行 新規)・事務局開設チラシの作成 新規)・SNS を利用した情報発信

『これからの5年を考える』

西岳地区社会福祉協議会 会長 竹松 治男

西岳地区は、現在高齢化率60パーセントを超えている状況です。5年後はさらに、高齢化率が高くなります。その中でも、公民館をはじめ民生委員などの様々な協力を得て励まし合いながら助け合いながら皆さんが1日でも長く自分の家・地域で過ごせる努力をしていきたいです。

西岳地区社協 これからも続けていきたい活動

夏休み！のびのびスクール

学習支援事業「夏休み！のびのびスクール」を実施しています。地域住民と子どもたちの顔が見える環境づくりと普段と違った学びの場という目的で毎年夏休み期間に実施しています。講師も地域の方にお願ひし、それぞれの特技を活かした形で行っています。



地域医療セミナー

こけないからだづくりへの取り組みの発表会と地域医療に関する講演会を開催しています。各地区での取り組みや地域医療に関するセミナーで皆さん楽しく学ばれています。



こけない体操リーダー研修

毎年講師をお呼びして、楽しくできる介護予防（レクリエーション活動）をみんなで学んでいます。

楽しいお話や歌、ゲームを楽しく学び、また各地区に持ち帰っていただき日々のこけない体操の前後に導入していただき介護予防につなげています。



地域資源との協働活動

- ・ふれあい訪問活動
一人暮らしの高齢者世帯へ地域の小学生・民生員と一緒に訪問活動を行っています。
- ・はるおさんげえ（地域づくり部会）
西岳地区の居場所づくりや活性化のために様々な活動を行っています。「みんなが無理なくできる範囲で」という形で活動を行っています。



ふれあい訪問



はるおさんげえ

(80歳以上の方への弁当配布)

西岳地区スローガン

わいわい たのしく けんきよく 西岳

【基礎情報】(R2.5.1)

人口規模 (住基人口)	全 体	1,731人	世帯数	990世帯
	男 性	791人	自治公民館加入世帯	741世帯
	女 性	940人	自治公民館加入率	74.8%

【西岳地区の現状・課題】計画策定作業と「地域福祉に関するアンケート調査」結果より

○コロナ禍の影響・集まる場所について

- ・移動手段がなく、こけない体操などに来ることも大変さがある。今後もこけない体操は続けていきたい。地域の情報の共有の場になっている
- ・コロナ禍で、ふれあいの場が減って心配事や困りごとを共有する場が減っている。公の場より部落の力を借りて触れ合いの場を設け、つなげていくような仕組みづくりが必要

○日常生活について

- ・移動販売や福祉タクシーがあるが利用者が少ない。しかし、なくなると困る人がいる
- ・免許の返納をしたら、日常生活に支障が出る
- ・人にお世話になりたくないという人も多く、声掛けが難しいところもある。有償ボランティア等の導入を考えていきたい
- ・西岳は面積が広く、隣が遠い。広い西岳が今後さらに広がっていく可能性がある

○子ども・若い世代について

- ・子どもが少なすぎる
- ・若い人が働く場所がない（企業の誘致をお願いしているがなかなか進まない）
- ・便利さ（買い物、病院、学校）を優先して、他の地域に出てしまう

○今後について

- ・10年先は人がいなくなっているかも…
- ・西岳の未来についてオンラインなどでつないで会議ができるといい

○西岳地区の自慢・強み

- ・自分の事は自分でされる方が多いので高齢率は高いが介護保険を使っている方が少ない
- ・空気がきれいで自然が多く星もきれい。食べ物（米）もおいしい
- ・近隣の方と頼り・頼られる関係ができており、頼られるとうれしい
- ・地域のまとまりがあり、物事を進めるときの話の進み方が早い

西岳地区地域福祉活動計画

(計画実施期間・令和3年度～令和7年度)

計画スローガン (大項目)

㊦ いわい ㊦ のしく ㊦ んきよく 西岳

中項目	小項目	具体的な取り組み内容
1 からだがこけない、こころがこけない、地域がこけない地域づくりを推進します (地域づくり)	1-①これまで取り組んできた事業をさらに充実させていきます	継続)・いきいきサロン (いたつみる会) の推進 継続)・在宅介護者の集いの開催 継続)・のびのびスクールの開催 継続)・地域医療セミナーの開催 継続)・料理教室の開催、参加者の窓口を広げて実施していく
	1-②子どもへの支援や学校との連携に努めます	新規)・子どもたちと地域の方と交流できる新たな取り組み (新たな活動について学校などと連携し協議を行う)
	1-③助け合いのしやすい地域づくりをします	新規)・西岳版シルバー人材センターについての協議を始める 新規)・有償ボランティアの立ち上げを検討する
	1-④こけない体操を継続します	継続)・各地区自治公民館にてこけない体操を継続していく 継続)・こけない体操リーダーの養成、研修の開催
	1-⑤新たな事業の取り組みを検討していきます	新規)・高齢者の買い物・移動手段について検討する 新規)・誰でも気軽に立ち寄ることができる寄合の場の設置を検討する 新規)・西岳のイメージアップにつながる活動を考える
2 ボランティア育成やつながりづくりのため事業を充実していきます (人づくり・つながりづくり)	2-①ボランティア育成に取り組めます	新規)・有償ボランティア研修の実施 (R3)
	2-②若い世代を巻き込んだ活動を推進します	新規)・若い世代が参加したくなるようなイベントを行う
3 様々な関係機関・団体が協議できる場づくりに取り組みます (協議の場づくり)	3-①地区内の関係機関・団体等の連携を図ります	新規)・地区内関係機関団体意見交換会の実施 (R3～年2回) (行政や地元企業との協議の場の検討) 新規)・オンラインでの会議にも検討する
4 地域住民の困りごとに対応できる組織体制づくりを目指します (しくみ・体制づくり)	4-①事務局体制を充実強化していきます	新規)・社協役員体制の見直しを行う (各地区の情報共有ができるよう役員体制を整える)
	4-②広報 PR 活動を強化します	継続)・広報紙の発行 新規)・事務局開設チラシの作成 (R3～)

『これからの5年を考える』

中郷地区社会福祉協議会 会長 稲元 光明

「地域づくりは人づくり」を念頭に、様々な機関の協力を得ながら、御近所同士での助け合い活動を推進し、「子供から高齢者まで、誰もが笑顔で気軽に集うことのできる身近な場所が沢山ある」そんな地区にしていきたいと思ひます。

中郷地区社協 これからも続けていきたい活動

お元気じゃひか？なかんごう♪

どのような時でも地域のつながりを絶やさないように、敬老の日にあわせて子どもから高齢者へ絵手紙を送っています。

絵手紙作成を小学生から中学生にまで広げ、高齢者から子どもたちへのお礼の手紙作成など、さらなるつながりの発展を目指します。



子育てサロンなかん GO!!

毎月第4土曜日に、地域の子育て支援を目的に、小学生までの子どもの居場所づくりとその親を含めた交流の場として開催しています。令和2年度はコロナ禍で活動を自粛しましたが、令和3年度からは、地域の様々な施設と協働したプログラムを検討するなど、地域共生社会への取組にも努めます。



※令和元年の活動の様子

見守りネットワーク構築訓練

毎年、徘徊者捜索訓練やひとり暮らし高齢者宅の把握などを自治公民館単位で実施しています。

今後も、高齢になっても安心して暮らし続けることができる中郷を目指して多くの団体と協働しながら取り組んでいきます。



金御岳スクール (子どもの学習支援事業)

小学校3年生を対象に、居場所づくりとして夏休みと冬休みに開催しています。

今後も地域ボランティアと中学生ボランティアの力を借りながら、楽しい時間を提供していきます。



中郷地区スローガン

㊦ さえ合う心で ㊩ あわせの絆を育む
なかんごうひろ㊨

【基礎情報】(R2.5.1)

人口規模 (住基人口)	全 体	8,603 人	世帯数	4,159 世帯
	男 性	4,074 人	自治公民館加入世帯	2,590 世帯
	女 性	4,529 人	自治公民館加入率	62.3 %

【中郷地区の現状・課題】計画策定作業と「地域福祉に関するアンケート調査」結果より

- 事業運営スタッフの高齢化
- リーダーとなる人材の不足
- 個別ケースへの支援の在り方
- 地区にスーパーマーケットがなく買い物が不便
- 子育て世代との接点がない
- 高齢を原因とした問題（公民館脱退、移動手段、ゴミ出し、庭木の管理等）
- 若い世代の公民館未加入問題
- 地域住民が参加し、意見を交換する場がない
- 住民が集う場所がない
- 互助意識の欠乏
- ゴミ出しのルールが守られていない
- ゴミ屋敷問題
- 住民同士でのあいさつが少なくなった
- 社協活動の情報発信の在り方
- 空き家の増加
- 様々な情報が地域住民に行き渡らない
- 困りごとをどこに相談してよいかわからない
- 新型コロナウイルス感染に対する住民の不安が拭えない
- コロナ禍の外出自粛で困っている人や地域が見えない
- コロナ禍で住民も支援者も皆気分が沈んでしまっている

中郷地区地域福祉活動計画

(計画実施期間・令和3年度～令和7年度)

計画スローガン (大項目)

㊦ さえ合う心で ㊧ あわせの絆を育む なかんごうひろ ㊨

中項目	小項目	具体的な取り組み内容
1 小地域 (自治公民館単位) での福祉活動の充実と関係機関団体との連携協働できる地域づくりを目指します (地域づくり)	1-①これまで取り組んできた事業をさらに充実させていきます	継続)・中郷地区ふれあいふくしまつり 継続)・生活支援コーディネーターの活動支援 継続)・子どもの生活・学習支援 継続)・役員研修の実施や各種研修への参加 継続)・男前料理教室
	1-②誰もが安心して暮らし続けることのできる地域を目指します	新規)・様々な機関と協働したあいさつ運動の展開 新規)・有志による助け合い活動の支援 継続)・見守りネットワーク構築訓練 継続)・認知症に関する学習会・研修会 継続)・在宅介護者の集い
2 多くの人に参加し、新たなつながりが生まれる仕組みを構築します (人づくり・つながりづくり)	2-①世代間交流を促進します	新規)・空き家や空き店舗を活用した寄り合い所の創設 継続)・いきいきサロン活動 (いたっみろかい) への助成 継続)・「お元気じゃひか?なかんごうひろ」を通して、高齢者と子どものつながりの機会を創設 継続)・他団体と協働できる「子育てサロンなかんGO!!」のプログラム開発
	2-②新たな人材の発掘と育成を行います	新規)・壮年部や退職した人材との繋がり構築 継続)・まちづくり協議会との協働 継続)・中学校ボランティアの育成と活動支援 継続)・生活援助員の養成
3 様々な関係機関・団体が協議できる場づくりに取り組みます (協議の場づくり)	3-①地区内の関係機関・団体等の連携を図ります	継続)・福祉施設等との意見交換会 (年1回)
4 全ての地域住民が地区社協を身近に感じること (しくみ・体制づくり)	4-①広報PR活動を強化します	新規)・事務局開設チラシの作成 継続)・広報紙の発行 (年2回)

『これからの5年を考える』

山之口地区社会福祉協議会 会長 有川 俊一郎

山之口は、これから5年の間に県陸上競技場建設を中心に町が大きく変わっていきます。変わりゆく中で、地域の人々、特に高齢者、弱者に対してサロン活動やこけない体操などの地域のつながりを増やすための活動を基本にみんなで頑張っていきたいと思います。

山之口地区社協 これからも続けていきたい活動

6地域公民館長・民生委員児童委員合同研修

令和元年度は、「タイムトラベルボード10年後の地域の状況について考える」と題して10年後の地域課題の共有と意見交換を行いました。令和2年度は、住民主体のたすけあい（生活支援）について、学ぶ予定でしたが、開催できなかったため、来年度も同じテーマで取り組んでいきます。



いきいきサロン全体研修

例年、仲間づくり、健康づくり、交流の場づくりを目的に一堂に会して実施していましたが、今年度は、コロナ禍で開催日を2日間に分けて人数も制限しフラワーアレンジメントを実施しました。外出もままならない中、花を扱うことで集中しリラックスできたとの声が聞かれました。



学習支援事業

令和元年度は、「夏休み子ども教室」として12日間、令和2年度は、コロナ感染拡大防止のため「夏休みふれあい絵画教室」として2日間実施しました。子どもたちの学びを保証する取り組みとして来年度以降も開催方法を工夫しながら取り組んでいきます。



生活援助員・日常生活支援員合同研修

調理実習を中心に食改善委員の指導のもと援助員と支援員の合同研修を実施しています。令和2年度は、男性の生活援助員の方の登録があり研修に参加していただきました。男性の援助員さんからは、今後、生活おたすけサービスの利用者を担当する上で大変参考になる研修でしたとの感想が聞かれました。



山之口地区スローガン

すべての住民が、いつまでも住み慣れた地域で豊かに生きがいを持って生活するために

【基礎情報】(R2.5.1)

人口規模 (住基人口)	全 体	6,027 人	世帯数	2,899 世帯
	男 性	2,841 人	自治公民館加入世帯	1,968 世帯
	女 性	3,186 人	自治公民館加入率	67.9%

【山之口地区の現状・課題】計画策定作業と「地域福祉に関するアンケート調査」結果より

1. 地域づくり

- ・子どもたちの意識が学校の中から地域へ目が向き始めている
- ・学び、体験の機会がなくなっていることにより子どもたちが疲弊している
- ・高齢者が外出自粛に伴いADLの低下、ストレスの増加が見られる
- ・公民館行事、訪問活動が出来ない状況の中で公民館の存在価値が問われている
- ・コロナ禍でも公民館報を作成し月2回の各戸訪問を実施し安否確認を実施している

2. 人づくり・つながりづくり

- ・地域住民の来校者の減少、保護者の来校の機会が減少した
- ・規模や人数を制限して学校行事を実施したことに対して地域の方から感謝された
- ・子どもたちのあいさつ運動が地域を変えている
- ・地域でリーダーになるような人材が居ない、育たない
- ・学習支援の実施期間を短くして実施せざるを得なかった

3. 協議の場づくり

- ・若者との接点がなく参画がない
- ・PTA連協との協働や参画が出来ていない
- ・若い年齢の方々の地域参画がない

4. しくみ・体制づくり

- ・民生委員児童委員の欠員地域が2か所、2名の欠員がある
- ・自治公民館の施設維持管理が難しい状況である（費用面と集えない状況の両面）
- ・地区社協の体制や仕組みの見直し、財源の強化が必要
- ・安否確認の機会が無いと身近な人たちとの繋がりが大切だと感じている
- ・地区社協の知名度が低い

山之口地区地域福祉活動計画

(計画実施期間・令和3年度～令和7年度)

計画スローガン (大項目)

すべての住民が、いつまでも住み慣れた地域で豊かに生きがいを持って生活するために

中項目	小項目	具体的な取り組み内容
1 自治公民館単位で住民同士が助け合い健康で幸せな生活をおくることができる (地域づくり)	1-①公衆衛生に配慮し交流の場所が常に使える状態で複数展開できるように支援する	継続)・いきいきサロン活動支援・全体研修開催 継続)・地域敬老大会支援・学習会開催支援
	1-②公共施設及び施設跡地利用を住民流の目線で考え利用できるように支援する	新規)・文化的・芸術的・伝統芸能的な活動の発信と広報活動
	1-③学校行事及び生徒、先生の活動を支援しサードプレイス(地域の居場所)運営を支援する	継続)・夏休みこども教室開催(学習見守り支援) 継続)・小中学校花いっぱい活動支援 新規)・農業体験活動支援 新規)・サードプレイスの情報発信、活動支援
	1-④子育て世帯を支援する取り組みを支援する(気になる子どもの世帯と繋がる)	継続)・食材寄付の取り組み(民生委員)
2 「助けて」を求めやすい住民同士のつながりがある (人づくり・つながりづくり)	2-①世話焼きさんを発掘する取り組み	継続)・生活援助員の発掘及び養成研修の実施
	2-②助けられ上手な人を増やす取り組み	新規)・住民力アップの勉強会(世代間の意見や情報交換)
	2-③地域のリーダー育成の取り組み	新規)・住民力アップの勉強会 新規)・コロナ禍で露呈した差別の勉強会(人権学習会)
3 あらゆる年齢の全ての人の課題を話し合える場や機会がたくさんある (協議の場づくり)	3-①もっと豊かに生活するために地域のニーズを掘り起こす	継続)・生活支援コーディネーター定例会
	3-②同じ悩みを抱える当事者グループが集える	新規)・子育ての親の会のつどい
	3-③相談場所の新規開設(移動開設も含む)	継続)・福祉なんでも相談窓口 新規)・福祉なんでも出張相談窓口(アウトリーチ型)
4 住民の活動を後方支援する組織体制づくりを目指す (しくみ・体制づくり)	4-①自治公民館単位での住民流のたすけあいの仕組みづくりの支援	新規)・住民主体のたすけあいの仕組みの勉強会
	4-②新しい取り組みへの助成金支援、活動支援	新規)・使用目的を明確にした助成金の獲得
	4-③地区社協の寄付金による財源強化	新規)・寄付募集のチラシ
	4-④地区社協の知名度を上げる	継続)・あじさいだよりの発行→地区社協だよりの発行
	4-⑤多機関との連携強化を図る	新規)・定期的な振返りの実施

『これからの5年を考える』

高城地区社会福祉協議会 会長 石田 操

高齢化の進展に伴い、公民館加入者の減少が続く中、最重点活動として、高齢者の見守りを兼ねる「ふれあいいきいきサロン・配食サービス」を充実していきたいです。そして、誰もが安心して住み慣れた地域で暮らせるまちを目指していきたいです。

高城地区社協 これからも続けていきたい活動

地域福祉合同学習会

地区社協の構成員である、民生委員児童委員と公民館長が一堂に会して、年に1回、地域福祉について学び合い、親睦を深めます。より良い連携協働に結びついています。



社会福祉施設意見交換会

高城地区内の社会福祉施設や NPO 法人、一般社団法人等との意見交換会を年1回実施しています。高城地区内での課題を共有したり、新たな団体の活動の情報提供等、意見交換の場となっています。



ボランティア・福祉まつり

毎年11月3日に実施される高城地区全体のお祭りです。子どもさん達とふれあうゲームコーナーやわたがしコーナー等を提供し、住民との交流を図っています。



ふれあいいきいきサロン&配食サービス

地域住民からお寄せいただいた地区社協会費を原資として、自治公民館ボランティアグループがふれあいいきいきサロンや配食サービスに取り組んでいます。



高城地区スローガン

**ふるさとを愛し、誇りを持ち、新しい時代を拓く
高城人を育む!**

【基礎情報】(R2.5.1)

人口規模 (住基人口)	全 体	10,204 人	世帯数	4,866 世帯
	男 性	4,802 人	自治公民館加入世帯	3,585 世帯
	女 性	5,402 人	自治公民館加入率	73.7%

【高城地区の現状・課題】計画策定作業と「地域福祉に関するアンケート調査」結果より

○公民館に関する問題

- ・公民館未加入世帯が増えてきている
- ・班長など役員の仕事や役割についての理解不足や活動意識の低下がある
- ・若い世帯が増えても、公民館に加入しない

○人口減少に関する問題

- ・いったん町を出た若い人は、地元に戻ってこない
- ・市町村合併により、都城市内での移動(転居)の手続きがしやすくなった。その結果、高城地区の人口が市内の他地区へ動く傾向がある。現在、高城地区の人口は1万人強だが、今後は減少に転じる
- ・1年間に生まれるこどもが60人位である

○コロナ禍による問題

- ・コロナを理由に活動が減少し、活気がなくなった

○高齢者の移動支援・買物支援に関する問題

- ・高齢者の運転免許証返納に伴い、移動支援の課題が上がってくる。行政が補助金を出しているコミュニティバスは、利用しても待ち時間が長く、利用者数が増えない(居住地によっては、目的地とわが家への往復に、半日以上かかることもある)
- ・住民による移動支援サービスを考えるにしても、人材、財源等良い知恵が浮かばない
- ・行政が補助金を出している買物支援カーよりも、純粋な民間業者による移動販売車の方が値段も安く、心待ちにしている高齢者も多い

○自殺に関する問題

- ・自殺者が多い地区がある

○地区社会福祉協議会の問題

- ・世間的に相談窓口は多くなっているが、地区社協の実際の相談は少ない

高城地区地域福祉活動計画

(計画実施期間・令和3年度～令和7年度)

計画スローガン (大項目)

ふるさとを愛し、誇りを持ち、新しい時代を拓く 高城人を育む

中項目	小項目	具体的な取り組み内容
1 認知症や自殺問題、移動困難等、様々な課題を抱える方々が安心してSOSを出せる、そして受け止めることができる地域づくりを行っていきます (地域づくり)	1-①困っている方々が、SOSを出せる、そしてそのSOSを受け止めることができる地域づくりを目指します	新規)・ゲートキーパー研修・心の健康講座の実施 (R3～) 継続)・認知症学習会
	1-②一人暮らし高齢者の見守り活動を推進していきます	継続)・ふれあいいいききサロン・配食サービスの実施
	1-③こけない体操を工夫して、バージョンアップしていきます	新規)・こけない体操にぼけない体操をプラスして、認知症の予防にも取り組みます (R3～)
	1-④地域の要は、自治公民館。自治公民館への加入促進を自公連と共に粘り強く行っていきます	継続)・公民館加入のメリットを粘り強く、PRする 新規)・子育て世代・高齢者世代の役員免除を提案していく (R3～)
	1-⑤住民が身近で参画できる活動を提供していきます	継続)・ボランティア・福祉まつりの開催
2 学校と地域が一体となって、これからの人材を育成していきます (人づくり・つながりづくり)	2-①地域住民が主体となって、若者の福祉教育・防災教育に取り組みます	継続)・地区内の小中学校を対象とした福祉教育・防災教育の実践 新規)・地区内の高校を対象とした福祉教育・防災教育の実践
	2-②こどもを真ん中に、郷土愛を深めるお母(棺)教育を普及していきます	継続)・地区内の小中学校・高校を対象としたお母(棺)教育の実践 (R3～)
3 様々な関係機関・団体が協議できる場づくりに取り組みます (協議の場づくり)	3-①様々な福祉課題を協議できる場をつくります	継続)・旧4小学校区単位での地域生活支援会議の実施
	3-②様々な活動主体との意見交換の場をつくります	継続)・地域福祉合同研修会 継続)・社会福祉施設等意見交換会
4 地域住民の困りごとに対応できる組織体制づくりを目指します (しくみ・体制づくり)	4-①事務局体制を充実強化していきます	新規)・事務局開設週2回体制をめざします
	4-②広報PR活動を強化します	継続)・広報紙の発行 新規)・事務局開設チラシの作成 (R3～)

『これからの5年を考える』

山田地区社会福祉協議会 会長 加覧 健三

人口減少、少子高齢化が進み、コロナ禍の影響で財政状況が厳しくなる中ですが、財源確保に努めながら「誰もが安心して暮らせるまちづくり」を創意工夫の積み重ねにより、これまで培った地域福祉支援が発展継続されることを期待します。

山田地区社協 これからも続けていきたい活動

子どもボランティア「ひまわり隊」活動

地域の方々との交流を通じ様々なボランティア活動をしています。これからの地域を支える担い手としてボランティア育成に取り組み、つながりを絶やさない活動を続けます。



住民参加型福祉サービス「たすけ愛隊」

地域住民一人ひとりが、住み慣れた地域で安心して暮らしていくため、地域の参加と協力を得て「地域相互で支え・助け合える仕組みづくり」を目的に、有償ボランティアサービスを展開します。



いきいきサロンの推進

子どもから高齢者、障がい者を対象に各公民館のいきいきサロンを推進しています。健康増進と居場所づくりを目的に、いつまでも元気で安心して暮らせるまちづくりを目指します。



子育て応援事業

子育てに関する悩みの相談窓口として第1・3木曜日10時～12時「つくしんぼ」を開設中。その他交流会や、子育てサロン、親子活動のサポートを行っています。今後も子育て世代の支援の輪が広がるよう取り組んでいきます。



山田地区スローガン

**安らぎとふれあいのなかで、ともに支えあい
だれもが役割を担える福祉のまちづくり**

【基礎情報】(R2.5.1)

人口規模 (住基人口)	全 体	6,993 人	世帯数	3,353 世帯
	男 性	3,290 人	自治公民館加入世帯	2,368 世帯
	女 性	3,703 人	自治公民館加入率	70.6%

【山田地区の現状・課題】計画策定作業と「地域福祉に関するアンケート調査」結果より

- リーダーの担い手不足
- サロン等のサポーターの高齢化
- リーダーやサポーターに負担がかかりやすい
- 公民館長が一年交代の地区は継続課題の連携がとりづらく、解決に結びつかない
- 公共交通機関が少ない
- 車の免許を返納しても、交通手段がなく困る
- 車の免許返納後の行動(買い物や通院)が心配
- 困りごとを近隣住民が聞いてくれ助かっている
- 商店がなくなり買い物が不便な地域がある
- ゴミ出しが困難な一人暮らし高齢者が多い
- 個人情報に縛られすぎ、欲しい情報が得られない
- 空き家が多くなってきており倒壊する恐れがある家もある
- 高齢者でSOSの発信ができる人はいいが、できない高齢者もいる
- 子どもや若年層が少なく活気がなくなりつつある
- 子どもが少ないので交流したくてもできない
- 子どもが忙しく交流ができない(塾、習い事、スポーツ少年団)
- コロナ禍の課題
 - ・イベントや行事が自粛になり、何もしなくていいのか不安になる
 - ・活気がなくなった
 - ・一度自粛したものを再開する事に気分がのらない(地区の行事やサロン等)
 - ・外出自粛により高齢者の体力低下が目立つ(サロンやこけない体操の自粛等)
 - ・子どものネット依存(ゲーム、動画、オンラインゲーム)が心配
 - ・子どもの遊べる環境がなくストレスがたまる

山田地区地域福祉活動計画

(計画実施期間・令和3年度～令和7年度)

計画スローガン (大項目)

安らぎとふれあいのなかで、ともに支えあい だれもが役割を担える福祉のまちづくり

中項目	小項目	具体的な取り組み内容
1 小地域 (自治公民館単位) での福祉活動の取り組みと関係機関団体との連携共働できる充実した地域づくりを目指します (地域づくり)	1-①これまで取り組んできた事業をさらに充実させていきます	継続)・いきいきサロンの推進 継続)・福祉協力員活動の推進 継続)・子どもや高齢者の見守り活動 継続)・在宅介護者のつどいの開催 継続)・環境をテーマにしたボランティア活動や学習会 新規)・男性を対象にした料理教室
	1-②まちづくり協議会や関係機関等との連携強化をしていきます	継続)・関係機関を巻き込んでの地域福祉活動 (災害訓練・学習会、交流活動、等) 新規)・オレンジカフェの立ち上げ (認知症徘徊防止訓練等)
	1-③子どもの意見を主張できる場づくりに取り組んでいきます	継続)・子どもが意見を主張できる場を作り意見発表会を行います
	1-④文化伝承に取り組めます	継続)・世代間交流活動 新規)・山田地区の伝統を継続させる活動に取り組めます
2 多世代のボランティア育成のため事業を充実していきます (人づくり・つながりづくり)	2-①子どもボランティアの育成に取り組めます	継続)・子どもボランティア「ひまわり隊」による、高齢者との交流や環境活動、国際交流など様々な活動に取り組めます
	2-②ボランティア育成に取り組めます	継続)・住民参加福祉サービス「たすけ愛隊」支援員の育成 継続)・サポーターの人材発掘に取り組めます
	2-③子育て応援体制の強化をしていきます	継続)・子育てに関する悩みや子育て応援事業の相談窓口の開設 継続)・子育て支援に関するPR活動や、情報収集及び情報提供 新規)・障害児に関する相談窓口の開設
3 様々な関係機関・団体が協議できる場づくりに取り組めます (協議の場づくり)	3-①子どもに関する情報交換ができる場づくりに取り組めます	継続)・子育てサロン「つくしんぼ」での情報交換 新規)・生活支援会議を通して、情報を共有する場づくりをします
	3-②日々の生活課題に対して、地域全体での対応の検討に取り組めます	継続)・生活学習支援事業及び食の支援事業 継続)・ケース会議で情報共有し、地域の課題として協議します
4 地域住民の困りごとに対応できる組織体制づくりを目指します (しくみ・体制づくり)	4-①事務局体制を充実強化していきます	新規)・事務局体制の人員増加
	4-②広報PR活動を強化します	継続)・広報紙の発行

『これからの5年を考える』

高崎地区社会福祉協議会 会長 権堀 修一

活動計画はテーマ別に、現実的な活動を考えました。少子高齢化や人口減少などその対策は広範囲であり地域住民の理解が不可欠です。今後も地域の実情にあった活動を市民と連携して行い「共に支え合う地域づくり」を目指します。

高崎地区社協 これからも続けていきたい活動

福祉部設置事業

自治公民館組織に福祉部を設置し、継続的な地域福祉活動を実施する公民館に対して助成金を交付するものです。用途は見守り、サロン、環境美化等の活動に使われています。(令和2年度は43館中31館に交付)



映画まつり

子ども達の健やかな成長を願うとともに、地域で子どもの夢を支援すること、そして地域住民の憩いの場として開催しています。今後は、生活様式の変容を考慮しながら、様々な様式を検討していきたいと思っています。



健康づくりサロン

一人暮らしや家の中で過ごしがちな高齢者等と地域住民、ボランティアがふれあいをとおして生きがいづくり・仲間づくりの輪を広げ、健康な生活が維持できるように開催しています。内容は安全講話、救急法、茶話会等で6地域公民館ごとに年1回実施しています。



地域福祉研修会

高齢化が進む中、住み慣れた場所で安心して暮らし続けることができる地域を目指して研修会を開催します。福祉協力員研修同時開催



今昔物語 ～昔を語る会～

高崎小学校3年生を対象に地域ボランティアによる昔と今の違いや生活の様子を聞くことにより助け合いの歴史を知り次世代へ伝えていく場として開催しています。



寺子屋サロン

地区内小学生を対象に、夏休み期間中遊びや学びをとおして仲間づくり・自分発見を体験し、閉じこもりを防ぐとともに思い出作りと居場所づくりを目的に開催しています。



高崎地区スローガン

「キラキラ星プランたかざき」続 星も町もキラキラ “ありがとう”があふれる安心・安全のまちづくり

【基礎情報】(R2.5.1)

人口規模 (住基人口)	全 体	8,699 人	世帯数	4,254 世帯
	男 性	4,130 人	自治公民館加入世帯	3,087 世帯
	女 性	4,569 人	自治公民館加入率	72.6%

【高崎地区の現状・課題】計画策定作業と「地域福祉に関するアンケート調査」結果より

- 炭床自治公民館は住民アンケートで56%が「困り事がない」と回答した
- 共和自治公民館おむすびカフェは、高齢者、子どもを対象に食事会を実施、また、学生や地域ボランティアによる学習支援も開催している(年4回)が、資金確保が課題
- 商工会工業部会は、廃棄物処理ボランティアを年1回行っている
- 商工会宅配サービスを維持することが大切(周知が必要)
- 衣料品店がない
- 包括支援センターの周知、地域に密着した活動
- コロナウイルス感染症予防のため様々な事業が中止になった(映画まつり、健康づくりサロン、ボランティアまつり等)
- 農産加工センターの利用促進
- 高齢者クラブの加入者停滞、役職を受けたがらない
- 高齢者クラブ(公民館単位)少なくなった
- 高齢者の集まる場がない
- 高齢者になると車の運転ができない。(免許返納)福祉タクシーが営業を始めた
- 身体障害者、認知症の人の対応。作業所、放課後等児童クラブがない
- 作業所を立ち上げて継続しない。障害者児の実態が見えない
- 今の子どもは、少年団等に加入しているため、地域行事や催し物に参加できない
- 若い親世代はSNS(ライン等)を利用するため、集うことが少ない
- 親子共にリラックスできて楽しめる場所の周知(アプローチの仕方を工夫し、間口を広げて良さを分かってもらおう。)
- 災害時の高齢者等の避難について場所と支援体制、防災に対する意識の向上、日頃からの声かけ
- 買い物弱者支援
- 空き施設、空き店舗、空き家の活用
- 健康、体力づくりの推進

高崎地区地域福祉活動計画

(計画実施期間・令和3年度～令和7年度)

計画スローガン (大項目)

「キラキラ星プランたかざき」続 星も町もキラキラ “ありがとう”があふれる安心・安全のまちづくり

中項目	小項目	具体的な取り組み内容
<場づくり> 1 小地域 (自治公民館単位) での組織・人材づくりとボランティアの育成活動、コミュニケーションづくりに取り組みます (よか人づくり)	1-①これまで取り組んできた事業をさらに充実させていきます (関係機関団体との連携も含む)	継続)・福祉部の設置 継続)・在宅介護者の集い 継続)・地域福祉研修会 継続)・まずは自治公民館加入を呼びかける 継続)・福祉協力員の活動の充実 継続)・映画まつり (ドライブシアターにする等様式変更も検討) 継続)・住民アンケート
	1-②できることからはじめよう「ボランティア活動」を積極的に推進していきます	継続)・夏休み寺子屋サロン 新規)・住民支援ボランティア養成講座 新規)・前期高齢者地域リーダー養成講座 継続)・県下一斉ボランティアの参加 新規)・学習支援のための家庭ティーチャー育成 継続)・子ども見守り支援
	1-③元気なあいさつ、思いやりの気持ちを育てます	継続)・朝のあいさつ声かけ
2 地域行事への参加、伝承文化の伝承を図ります (よか伝承ふるさと愛)	2-①みんなでつくる地域行事で地域の連携を図ります	継続)・学校運営協議会との協議、連携 継続)・まちづくり協議会との連携、協働
	2-②後継者づくりを強化します	継続)・昔を語る会「今昔物語」
	2-③郷土芸能保存活動を強化します	継続)・研修会でのオープニングアトラクション 新規)・学校と連携
3 商業の発展活性化、ふれあい交流の場・機会、施設整備、若者の定住 (働く場の確保) ができる取り組みを目指します (よか場づくり)	3-①地元産品の発信、地産地消の強化を図ります	継続)・いきいきサロンの実施
	3-②ふれあい交流を深める活動を実施します	継続)・健康づくりサロン・いきいきサロン 継続)・おむすびカフェの開催
	3-③空き家、学校等の空き教室の利用を関係者と協議し活用します	継続)・縄瀬保育園にて認知症カフェを開催 新規)・公共施設等の空き部屋によるふれあいサロン開催 (世代間交流)
<自然環境> 1 安心して通れる道路整備、安心安全防犯の環境づくりを目指します (よか安全対策)	1-①みんなが安心して通れる「道」の環境整備に努めます	継続)・自治公民館 (福祉部等) による道路整備、清掃活動の実施
	1-②防犯意識の啓発を推進します	継続)・健康づくりサロン「暮らしの安全講座」開催
2 地域に優しい環境づくりと自然環境保護に取り組みます (よか自然)	2-①ゴミ処理意識を高めます	継続)・看板の設置
	2-②植樹と花いっぱい運動を推進します	継続)・学校、高齢者クラブ、自治公民館と連携
	2-③河川をきれいにします	継続)・看板設置 継続)・まちづくり協議会との連携による「ほたるの里づくり」運動 新規)・自治公民館福祉部による清掃活動 新規)・河川清掃サークルとの連携
3 災害に備えて地域の体制整備に取り組みます (よか防災ネットワーク)	3-①災害に備えて地域の避難支援の必要な人に対する支援体制を検討します	新規)・身近な公民館や行政と連携した支援場所と体制の整備 新規)・防災研修会の開催、防災ボランティアの養成
<情報・サービス> 1 福祉サービスの充実を図ります 交通手段を確保します 情報発信、収集、提供、啓発を推進します (よかサービス)	1-①公的福祉サービス予算を有効に活用します	継続)・国庫補助金、共同募金の活用
	1-②住民が福祉サービスを受けやすい環境をつくらう	継続)・地域福祉研修会開催 新規)・地域の気になる人の個別訪問 新規)・福祉協力員による PR
	1-③交通手段の確保に努めよう (通院、通学、生活等)	新規)・様々なサービスの周知 (敬老特別乗車券の活用等) 新規)・公共交通機関との意見交換会 新規)・バスの乗り方教室の開催 新規)・買い物ツアーの実施
	1-④地域の情報を発信しよう	継続)・地区社協だより発行 (年4回) 新規)・サイトアップを行う
	1-⑤広報用 PR 活動を強化します	新規)・PR用チラシ、リーフレット作成